

あかるく
なかよく
たくましく



学校だより

武岡台養護学校 令和3年 12月3日(金)

学校ホームページアドレス
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/Takeokadai-H/top.html>

いつもどおりのことができるありがたさ

教頭 水野 高明



12時35分のチャイムと同時に毎日決まって子供たちが次々に屋外へ飛び出していきます。向かう先は、運動場や築山、固定遊具、玄関前の広場等。子供たちにとって一日の中で至福の時間です。教頭室の窓から見える玄関前の広場も活気ある子供たちの声が響き渡ります。これがコロナ前の当たり前の光景でした。

ところが、1年半前のコロナによって当たり前だったこれまでの学校生活が一変。臨時休校や分散登校、学校行事の中止や縮減、集団学習の制限、黙食等、子供たちの日常を大きく変えてしまいました。友達や先生と共に過ごし、一人では味わえない喜びや経験を共有する貴重な場、それが学校です。毎日の学校生活を積み重ねて子供たちは成長し、生きていくための様々な力を身に付けます。いつもどおりのことができるありがたさを改めて感じさせられました。一日も早くこれまでの日常が戻ることを願うばかりです。

現在、少しずつ行事や集団学習等、通常に戻りつつあります。マスク着用など幾つかの制限は続いています。子供たちは、本当にたくましく日々の学校生活を送っています。

12時35分、今日もチャイムと同時に子供たちが飛び出してきました。今はマスク姿ですが、みんな笑顔です。教頭室の窓にいつもの昼休みの光景が飛び込んできました。

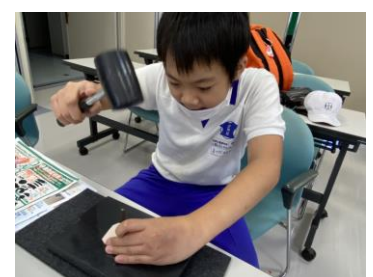


〈小学部〉



小学部5年生は、令和3年11月19日～20日にかけて、霧島自然ふれあいセンターにて宿泊学習を行いました。一日目は、霧島高原乗馬クラブにて乗馬・餌やり体験やセンターでの星空散歩を行いました。乗馬・餌やり体験では、間近で見る本物の馬の大きさや毛並みの美しさに目を丸くして驚いたり、触れたくてわくわくしたりする様子が見られました。馬の息づかいや揺れを全身で感じて馬との触れ合いを楽しむ貴重な機会となりました。センターでの星空散歩は、あいにくの曇り空で星を見ることはできませんでしたが、虫の声を聞きながら、真っ暗な芝生の上を友達と懐中電灯で照らしながら歩く経験も良い思い出になったことでしょう。二日目は、3グループ(レザークラフト、ガラス工芸、塗り箸)に分かれての創作活動に取り組みました。レザークラフトグループは、レザーに好きな刻印を刻んだり、絵を描いたりしてキーホルダーを作りました。ガラス工芸グループは、事前に準備した下絵をガラスのコップに貼り付け、表面を彫刻機で削って模様や絵を描きました。塗り箸グループは、6色の漆が塗り重ねられた箸を水で濡らしたサンドペーパーで思い思いに磨き、模様を作りました。どの創作活動も真剣な表情で夢中になって制作する姿が印象的でした。宿泊学習のコンセプトは“なるべく自分のことは、自分でしよう。チャレンジ!”でした。食事、入浴、寝具の準備や部屋の清掃、次の活動の準備、割り当てられた係活動など、いつもは、保護者の方々に手伝ってもらっているかもしれない活動も一人で頑張るぞ!という気持ちで事前学習を思い出しながら、一生懸命に頑張っていました。新型コロナウイルスの影響も心配されましたが、事前学習や事後学習を含めて5年生全体での宿泊学習を実施することができ、本当に良かったと感じることです。

この二日間を通して、子ども達は、友達同士の関係の深まりを感じ、様々な活動に自信をもって活動することができるようになったように思います。今後も宿泊学習での経験や学んだことを生かしていろいろなことにチャレンジして成長してほしいと思います。



(小学部第5学年 学年主任 久保田 剛)

